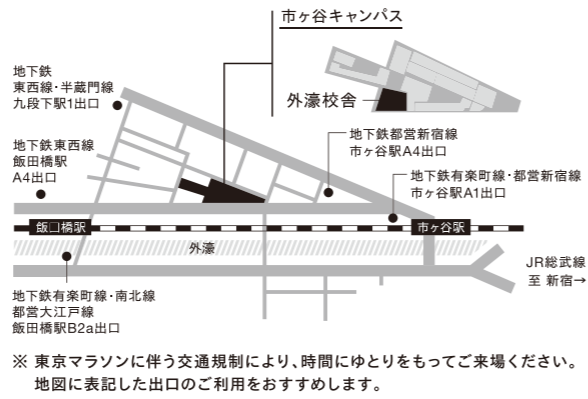


日時 2018年2月25日(日)10:00~19:00 開場9:00
会場 法政大学市ヶ谷キャンパス外濠校舎7階 薩埵(さった)ホール (東京都千代田区富士見2-17-1)
主催 法政大学江戸東京研究センター
入場無料 同時通訳付(日本語/英語)
参加申込 当センターのホームページ、もしくは下記URLの
申込専用フォームからお申込みください。
URL <https://www.event-u.jp/fm/m10867>
QRコード
ホームページ <https://edotokyo.hosei.ac.jp>
問合せ先 法政大学江戸東京研究センター事務局
E-mail edotokyo-jimu@ml.hosei.ac.jp TEL 03-3264-9682



EToS

日本が成熟社会を迎えた1980年代、東京でも都市の個性、文化的アイデンティティを求め、江戸東京の歴史への関心が高まり、「江戸東京学」が生まれ、広がりを見せた。海外の人々も、それまでの世界の都市モデルとされてきた西洋の都市とは異なる独特の姿、仕組みをもち、ポストモダンの価値観とも合致する東京に、大きな関心を向け始めた。

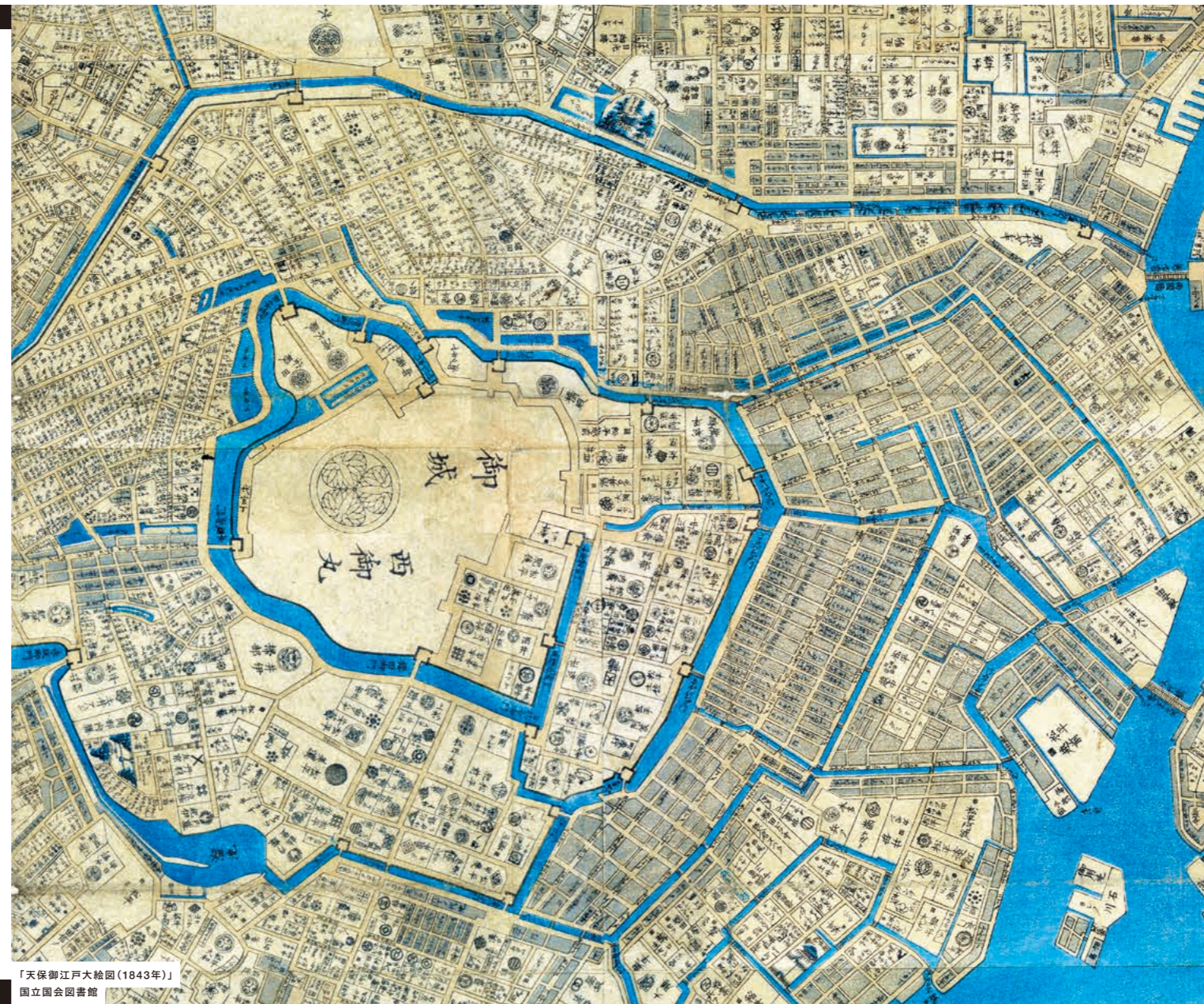
その後、日本は人口減少、高齢化社会の状況を迎え、従来の高度成長型の開発志向の強い都市の在り方に関しては、価値観の大きな転換が必要となってきた。

そして今、益々強まるグローバリゼーションの進展に対し固有の文化力を発揮するためにも、また、大きな課題である持続可能な地球社会を実現するためにも、江戸を下敷きにする独自の歴史に裏打ちされた東京らしい都市の近未来像を描くことが求められている。

こうした状況の下、江戸東京研究の先端的・学際的拠点として、法政大学に「江戸東京研究センター」が設立された。本学には、日本文化の特質に関し国際的共同研究を積み重ねてきた「国際日本学研究所」と、東京の都市の特徴を歴史とエコロジーの立場から国際的に比較研究してきた「エコ地域デザイン研究センター」によるこの分野の大きな研究蓄積がある。これら2つの研究組織が協同し、「江戸東京研究センター」が誕生した。1980年代に生まれ、やや停滞気味だった従来の「江戸東京学」を現代的視点で乗り越え、都市東京のユニークな特質を生み出す基層構造をハードとソフトの両面から解き明かし、西洋型の都市モデルとは異なる、21世紀に相応しい都市の在り方を研究していく。

「江戸東京研究センター」の設立を記念して開催されるこの国際シンポジウムでは、国内外の様々な分野の専門家・論客とともに、江戸東京の歴史から学び、そこに蓄積された知恵、資産の価値を新たな視点で掘り起こし、日本発の近未来都市像を描き出すことを目指したい。

陣内秀信 (法政大学江戸東京研究センター長)



江戸東京研究センター設立記念国際シンポジウム 新・江戸東京研究 ～近代を相対化する都市の未来～

2018/02/25 [日] 10:00-19:00
法政大学市ヶ谷キャンパス外濠校舎7階 薩埵(さった)ホール
主催:法政大学江戸東京研究センター

午前の部 10:00-12:00

陣内秀信 (法政大学江戸東京研究センター長) 新・江戸東京研究の展望

榎文彦 (建築家) 基調講演 ヒューマンイズムの建築を目指して

川田順造 (人類学者) 基調講演 「川向こう」をめぐる断想

午後の部 13:00-19:00

Session 1 江戸東京のモデルニテの姿 — 自然・身体・文化 —

チエリー・オケ (哲学/パリ・ナンテール大学)

ローザ・カーロリ (日本学/ヴェネツィア大学)

安孫子 信 (哲学/法政大学) モデレーター

Session 2 江戸東京の巨視的コンセプト Post-Western/Non-Western

パオロ・チェッカレッリ (都市計画/フェラーラ大学)

ロレーナ・アレッシオ (建築/トリノ工科大学)

ホルヘ・アルマザン (建築/慶應義塾大学)

北山 恒 (建築/法政大学) モデレーター

Session 3 水都の再評価と再生を可能にする哲学と戦略

リチャード・ベンダー (都市計画・建築/カリフォルニア大学バークレー校)

アントネット・ボアツティ (都市計画/ミラノ工科大学)

高村雅彦 (都市建築史/法政大学)

陣内秀信 モデレーター

文部科学省補助金 平成29年度「私立大学研究ブランディング事業」(法政大学)

NEW EDO-TOKYO RESEARCH

RELATIVIZING MODERNITY FOR REDEFINING THE FUTURE OF CITIES

午前の部

10:00-10:20 新・江戸東京研究の展望



陣内秀信 Hidenobu Jinnai 法政大学江戸東京研究センター長

1947年、福岡県生まれ。東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。イタリア政府給費留学生としてヴェネツィア建築大学に留学、ユネスコのローマ・センターで研修。1982年より法政大学建築学科助教授を経て、1990年より教授。専門はイタリア建築史・都市史。地中海学会会長、都市史学会会長を歴任。中央区郷土天文館館長、中央区都市計画審議会会長、国土省都市景観大賞審査委員長なども務めた。著書に『東京の空間人類学』(筑摩書房)、『ヴェネツィア 水上の迷宮都市』(講談社)など。サントリー学芸賞、イタリア共和国功労勲章、ローマ大学名誉士号などを受賞。

10:20-11:10 基調講演

ヒューマニズムの建築を目指して



槇 文彦 Fumihiko Maki 建築家

1928年、東京生まれ。1952年、東京大学工学部建築学科卒業。アメリカのクランブルック美術学院及びハーヴァード大学大学院修士課程修了。スキッドモア・オーウィングス・アンド・メリル及びセルト・ジャクソン建築設計事務所に勤務。ワシントン大学とハーヴァード大学で都市デザインの准教授も務める。1965年帰国、株式会社槇総合計画事務所設立。1989年まで東京大学教授。1993年ブリツカー賞、2011年AIAアメリカ建築家協会ゴールドメダル受賞。著書に『記憶の形象』(筑摩書房)、『漂うモダニズム』(左右社)、*Nurturing Dreams* (MIT Press)などがある。

11:10-12:00 基調講演

「川向こう」をめぐる断想



川田順造 Junzo Kawada 人類学者

1934年、東京生まれ。東京大学教養学部教養学科(文化人類学分科)卒業、パリ第五大学民族学博士。東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授などを経て、現在、神奈川大学特別招聘教授・日本常民文化研究所客員研究員、法政大学国際日本学研究所客員所員。近著に『人類学者への道』(青土社)がある。1994年フランス文化功労章、2001年紫綬褒章、2009年文化功労者、2010年瑞宝重光章、プルキナファン文化功労章などを受賞。

午後の部

13:00-14:50 Session 1

江戸東京のモデルニテの姿 — 自然・身体・文化 —

既に江戸後期から、そしてとりわけ明治維新以降に、江戸東京を決定的に性格づけているのはモデルニテである。それは西洋から余儀なく移入されたものであるが、江戸東京はそれを脆弱にではなく、したたかに、しなやかに受け容れてきた。西洋のモデルニテは、江戸東京の生来のレジリエンスによって大なり小なり相対化され、そこに根付いていったのである。パネルではレジリエンスの実態に触れつつ、江戸東京のモデルニテの姿を探っていく。



チエリー・オケ Thierry Hoquet 哲学(生物学の哲学)/パリ・ナンテール大学

1973年生まれ。リヨン第3大学を経て2016年よりパリ・ナンテール大学教授。生物学の哲学を出発点として文明の諸領域におよぶ批判活動を行い、近年はロボットやサイボーグと人間との関わりや、科学技術と都市の関係についても研究している。近著に *Des sexes innombrables*, *Le genre à l'épreuve de la biologie* (Seuil), *Cyborg philosophie: Penser contre les dualisms* (Seuil) がある。



ローザ・カーオリ Rosa Caroli 日本学(文化史・社会史)/ヴェネツィア大学

ヴェネツィア大学言語・比較文化学部教授。専門は日本近現代史で、日本の近代国家の進化を国家とその周辺に関するアイデンティティ主義の議論から研究する。沖縄研究にも携わり、2009年に第31回沖縄文化協会賞・比嘉春潮賞を受賞。近年では江戸東京の歴史研究も行い、*Fragile and Resilient Cities on Water: Perspectives from Venice and Tokyo* (Cambridge Scholars Publishing), *Tokyo segreta. Storie di Waseda e dintorni* (Edizioni Ca' Foscari) などの著書・論文がある。



安孫子 信 Shin Abiko [モデレーター] 哲学/法政大学

1951年北海道生まれ。専門はフランス哲学、フランス思想史。京都大学大学院修了。1996年より法政大学文学部教授。主な編著書に『ベルクソン『物質と記憶』を診断する』(書肆心水)、『ベルクソン『物質と記憶』を解剖する』(書肆心水)、*Bergson, le Japon, la catastrophe* (PUF)、『デカルトをめぐる論戦』(京都大学出版会)、『ベルクソン読本』(法政大学出版局)などがある。



「参謀本部陸軍部測量局 五千分一東京図測量図(1884年)」
(一財)日本地図センター



「国土地理院航空写真(2007年)」
国土地理院

15:00-16:50 Session 2

江戸東京の巨視的コンセプト Post-Western/Non-Western

明治維新は日本という国家のシステムをヨーロッパ文明の社会システムに切り替えた切断面であり、この切断面によって鏡面のように江戸と東京をみることもできるが、同時に江戸と東京を横断する概念も生まれる。ヨーロッパに生まれ、20世紀の都市建築の中心的コンセプトであったモダニズムを相対化することから、東京という都市の近未来のイメージを探る。

パオロ・チェッカレッリ Paolo Ceccarelli 都市計画/フェラーラ大学

フェラーラ大学名誉教授、ユネスコ持続可能な発展のための都市・地域計画議長、地中海ユネスコ議長ネットワーク・コーディネーター、ILAUD(国際建築都市研究所)所長。マサチューセッツ工科大学、カリフォルニア大学バークレー校などで客員教授、ハーヴァード大学、早稲田大学ほかで客員研究員を歴任。オーストラリア、中国、インド、ラテンアメリカ諸国などで都市計画に携わる。また、国連環境計画やユネスコ世界遺産などのコンサルタントやアドバイザーを務めるとともに、様々な国際機関で指導的な役割を果たしている。



ロレーナ・アレッシオ Lorena Alessio 建築/トリノ工科大学

ロレーナ・アレッシオ・アソシアティ代表。トリノ工科大学卒業後にプラット・インスティテュートと日本で学び、1998年に日本で博士(工学)の学位を取得。これまでにトリノ工科大学のほか、日本、韓国、台湾の大学で教鞭を取り、国際的なワークショップを企画・運営している。現代建築と都市設計に関する論考なども発表。建築家として数々の賞を受賞するとともに、イタリア、日本、台湾で都市設計の基本計画策定などに携わり、近年では2016年のイタリア中部地震の復興計画にも参加している。



ホルヘ・アルマザン Jorge Almazán 建築/慶應義塾大学

建築家、慶應義塾大学准教授。マドリド工科大学を卒業後、2007年に東京工業大学で博士(工学)を取得。2011年以来、慶應義塾大学でStudiolabを主宰し、自らの建築事務所ホルヘ・アルマザン・アーキテクトでは社会的で包括的な空間の創出などに取り組む。主な編著書に『ポスト・スーヴェニア・シティ』(フリックスタジオ)がある。建築家としてもストリートファニチャーデザインコンペティション(2016年)などで最優秀賞を獲得し、2017年にはソウル都市建築ビエンナーレで最新の東京研究を展示発表した。



北山 恒 Koh Kitayama [モデレーター] 建築/法政大学

1950年、香川県生まれ。横浜国立大学大学院修士課程修了。1978年ワークショップ設立(共同主宰)、1995年architecture WORKSHOP設立主宰。横浜国立大学大学院Y-GSA教授を経て、2016年法政大学建築学科教授。代表作に「洗足の連結住棟」「祐天寺の連結住棟」など。日本建築学会賞、日本建築学会作品選奨、日本建築家協会賞などを受賞。主な著書に、『TOKYO METABOLIZING』『都市のエージェントはだれなのか』(TOTO出版)、『in-between』(ADP)、『モダニズムの臨界』(NTT出版)など。2018年2月、「続・TOKYO METABOLIZING」展を開催。



17:00-18:50 Session 3

水都の再評価と再生を可能にする哲学と戦略

世界のどの国、どの地域でも、都市は水と密接に結び付いて形成され、発展した。特に、江戸東京は水と共生する都市であり、水都ならではの経済、文化、感性をおおいに発展させた。しかし近代化・産業化によって、水は汚染され、人々の関心から消えた。1980年頃から価値観は再び変化し始める。ポスト工業化社会、文化創造都市へ。自然との共生へ。水が人間や社会にもたらす新たな価値を発見し、付与すること。水の都市・地域の再生のための哲学、ストラテジーとは？

リチャード・ベンダー Richard Bender 都市計画・建築/カリフォルニア大学バークレー校

1930年、ニューヨーク生まれ。カリフォルニア大学バークレー校環境デザイン学部名誉学部長。ジュネーブのCERN(欧州原子核研究機構)、カリフォルニア大学、直島ベネッセ・アートサイトなどのマスタープランを指揮。日本では行政・民間の様々な都市開発計画にアドバイザーとして関わり、2004年日本都市計画学会国際交流賞を受賞。非営利団体BRIDGEハウジング・コーポレーションを創設、2012年には匿名寄付によりベンダー・コミュニティデザイン・住宅振興会が設立された。



アントネッロ・ボアッティ Antonello Boatti 都市計画/ミラノ工科大学

1948年、ミラノ生まれ。ミラノ工科大学建築学部准教授。都市環境の保護と価値向上を専門とし、様々な規制計画や政府計画の策定、ミラノ県内の自治体公共事業の設計などを担当。建築雑誌*Domus*での論考や、著書多数。近著に*Abitare in Lombardia ai tempi della crisi* (Maggiolo)。2013年から2015年までミラノ市委託による運河再開のための研究グループ・コーディネーター。現在ミラノの運河再開に関する科学委員会を取りまとめている。



高村雅彦 Masahiko Takamura 都市建築史/法政大学

1964年、北海道生まれ。法政大学大学院博士課程修了。2008年より法政大学建築学科教授。専門はアジア都市史・建築史。1999年前田工学賞、2000年建築史学会賞を受賞。2013年上海同済大学客員教授。主な編著書に『水都学I〜V』、『タイの水辺都市-天使の都を中心に』(ともに法政大学出版局)、『中国江南の都市とくらし 水のまわりの環境形成』(山川出版社)、『中国の水郷都市-蘇州と周辺の水の文化』(鹿島出版会)などがある。



P: Hiroshi Aoki

陣内秀信 [モデレーター]

18:50-19:00 シンポジウム総括 陣内秀信